

クイズに答えて素敵な商品をGET

最近富士山がついに世界遺産に登録されました。日本各地には「富士山」に似ている山がたくさんあり、その山のことを「郷土富士」と呼ぶそうです。例えば…福島県には会津富士(磐梯山)、岩手県には岩手富士(岩手山)などです。そこで問題です。



Q 我が福岡県にも筑紫富士、小富士などと呼ばれてきた富士山があります。さてそれは何という山でしょうか。

① 可也山 ② 皿倉山 ③ 四王寺山 ヒント…福岡城の石もここで採れたらしいよ。

応募方法 プレゼントの応募方法…同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。抽選で各10名様に ② FUJIYAMAクッキー ① 長谷部誠著「心を整える。」をプレゼントいたします。どちらかご希望の商品をご記入下さい。

応募期間 2013年10月25日(金)(消印有効)まで

当選発表 商品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様のご応募お待ちしております

墓石ガーデン(三日月山霊園下)展示場閉店のお知らせ

平成20年9月より休店していました展示場「墓石ガーデン」は先月8月31日をもちまして閉店させていただきます。

展示場「墓石ガーデン」は平成13年にオープンし、東部の地域、主に三日月山霊園をご利用されているお客様の窓口としておりましたが諸般の事情により閉店いたしました。皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、今後は平尾店でより一層充実したサービスで皆様のご要望にお応えできますように、社員一同全力を挙げてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

国松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189
工場/福岡市東区松田3-6-12
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com>

編集後記

今号より紙面をリニューアルしましたが、いかがだったでしょうか？

これからもひとりでも多くの方が「お墓参り大好き」と言ってもらえるような企画をいろいろと考えていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

(高田)

松ぽっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「疑問・質問にお答えします」
- 3 第25回 町名散歩「名島」
- 4 お墓参りっていいね！
「お墓参り」の感動的なエピソード
第1回 プロサッカー選手・長谷部誠さん
- 5 国松さん、今なんしようと？
国松石材スタッフ紹介
- 6 クイズに答えて素敵な商品をGET！



季節の小話

今年、出雲大社と伊勢神宮との遷宮(せんぐう)が重なる年です。遷宮とは、神社の本殿の造営または修理の際に、御神体を従前とは異なる本殿に移すことです。出雲大社は、随破遷宮(ずいはせんぐう)といって損傷が進んだ時に行うため、だいたい60年に一度というきわめて流動的なもの。伊勢神宮は、20年に一度、一定の周期ごとに新殿を造営して旧殿の御神体を移す式年遷宮。その2つが重なる極めて稀な年です。

出雲大社、伊勢神宮に、まだ行ったことがない方は、この機会に新殿にお参りをしてはいかがでしょうか。ちなみに出雲大社へ行くなら10月(神在月)がお勧めです!!全国の八百万(やおよろず)の神々が出雲の国に集まる月(他の県では神無月)。願い事が多く叶うかもしれません。



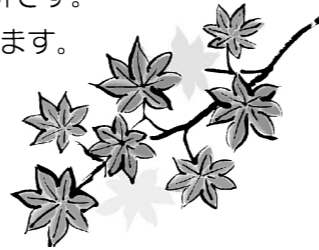
お墓の相談室 疑問・質問コーナー

松ぼっくりの返信ハガキに数多くのご質問をいただきました。
その中で特に多いご質問にお答えいたします。

ご質問がございましたら
ご遠慮なくご一報下さい。

質問 石と石との隙間に水垢がついて困っています。
掃除方法を教えてください。

回答 石と石との隙間(目地)は、どうしてもほこりや土が溜まりやすい場所です。
溜まったほこりや土の上に雨が降るとそこに水が残って水垢になります。
お掃除の際に、歯ブラシで優しく取り除くときれいになります。
使用済の歯ブラシを使用するとよいでしょう。
また、春の黄砂の頃は、黄砂が取れにくくなりますので、
マメに掃除をされることをお勧めしております。



質問 花筒に水が溜まって困っています。蓋付の花筒ってありますか。

回答 蓋付の花筒があります。
花筒と蓋は、鎖でつながれているので、紛失すること
もありません。御希望の場合はご一報下さい。
※花立の穴によってはサイズが無い場合もございます。



質問 骨壺の中に水が溜まっていた。
溜まらないようにするには、どうしたら良いでしょうか？

回答 風の通りがなく湿度が高いお墓の中で、表面温度の低い骨壺には、結露が発生します。
この結露が溜まったのが、骨壺の中の水です。この水を発生させないためには、
①結露が溜まらない構造の骨壺にする。
②結露が発生しない箱の中に骨壺を入れる。

水が溜まらないようにするには…!!

- ① 底に穴が空いた骨壺と交換する。
- ② 骨壺を結露防止の箱「天殿」に入れて納める。

まずはご相談下さい。

國松さん、 今なんしようと？

「福岡城」石垣復旧工事

国史跡の福岡城は1601年から7年かけて、初代福岡藩主の黒田長政が築いた城です。弊社は平成24年7月から始まった「国史跡福岡城跡」上之橋御門石垣保存修復工事に携わっています。

これまで石垣の状態調査、解体作業と福岡市、埋蔵文化財の専門家と共に、石垣の保存修復工事をすすめています。

先日6月18日福岡市によると、福岡城の石垣は耐震性を高めた工法を確認したと発表されました。「裏込め石」と呼ばれる石垣内部に敷き詰めた石が揺れに強い構造になっており、確認されたのは全国で初めてだそうです。

黒田長政の父親で来年のNHK大河ドラマで取り上げられる黒田官兵衛は築城の名手と言われ、抱えていた石工集団の技術が生かされているそうです。

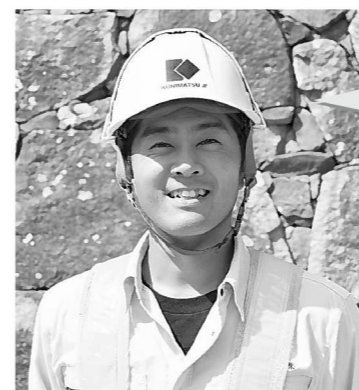
弊社も400年前の技術を目のあたりにして、石工集団に一步でも近づけるよう、より一層技術の研鑽に努めたいと思います。

営業担当/森裕二 工事担当/國松祥治



※弊社で代々言い伝えられてきたことですが、福岡城の石垣は可也山(かやさん)糸島市から産出していた良質な花崗閃緑岩です。

國松石材スタッフ紹介



くまつ しょうじ
工務部 國松 祥治

現在、福岡城の石垣復旧工事に従事しております。
先祖代々の生業である石材業で働けることに感謝し、
日々頑張っていますので、宜しくお願いします。

- 生年月日 / 1985年4月11日生まれ
- 血液型 / A型
- 資格 / 1級石材施工技能士(厚生労働大臣認定)
HSK8級(中国語検定)
- 最近読んだ本 / 忘れられた日本人 宮本常一 著

第25回
町名散歩
名島

名島

名島は、多々良川の河口にある町で、昔、黒崎と言われていました。神宮皇后が三韓出兵の折、到着に際し軍勢の名を呼んだことから「名を呼ぶ」が地名になり名島といわれるようになりました。

(諸説有)

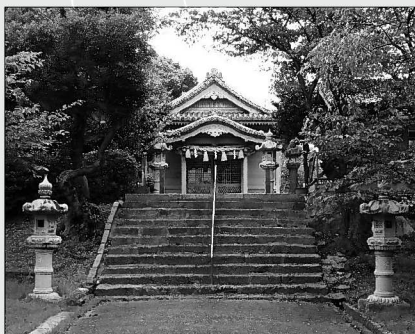
名島には、立花山を背景に名島城跡があります。この城は戦国時代に、立花城主の立花鑑載（あきとし）が支城として築造したのが始まりで、豊臣秀吉が九州へ進出すると、筑前国を与えられた毛利一族の小早川隆景（たかかげ）が1588（天正16）年より本拠地として使用しました。三方を海に囲まれた要害とし、北に本丸、その南に二の丸、三の丸を配した構造でした。この頃、名島は筑前国の政治の中心で首府だったのです。

しかし、関が原の戦い後、1600（慶長5）年黒田長政が筑前国に入国すると、城下が狭く大国として長く平和を保つには適地ではないと福岡城を築城します。それにより名島城は廃城となり、現在は、名島神社が本丸跡に建っています。名島城の城門は福岡城や崇福寺、宗生寺へ移築されました。その一つは、「名島門」として、福岡城の母里太兵衛の長屋門から大濠公園へ抜ける道に現存しています。また、石垣は、福岡城の築城の資材として使用されました。

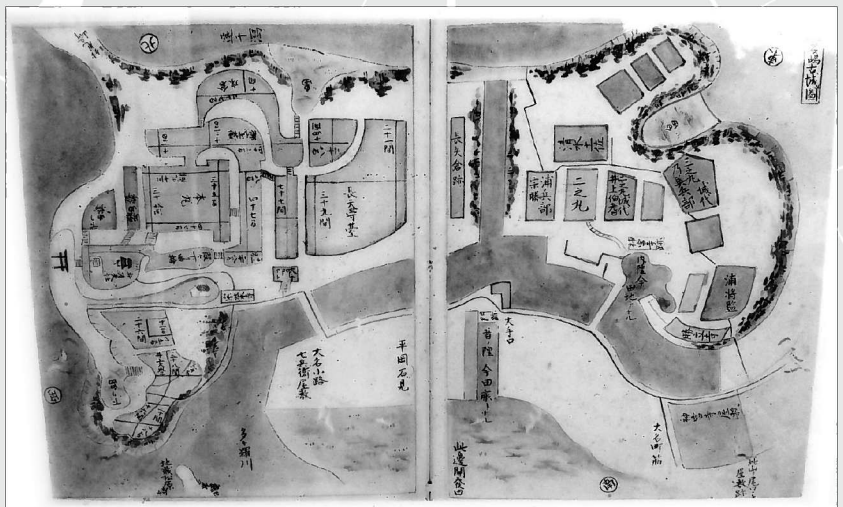
来年の大河ドラマの「軍師官兵衛」、名島城が出てきたら嬉しいなと期待しつつ、名島神社の宗像三女神様に良縁をお願いしながら、素晴らしい景観をあとにしました。



名島城跡



名島神社
当初神宮ヶ峰山頂にありましたが、福岡城築城の際に現在の場所に移されました



小早川時代の名島古城図

「お墓参り」の感動的なエピソード



お墓参りっていいね！

第1回 プロサッカー選手・長谷部誠さん 「いつも、じいちゃんと一緒に。」

長谷部誠著『心を整える。勝利をたくり寄せるための56の習慣』(幻冬舎)より

試合開始の直前、必ず心のなかでささやく特別な言葉がある。ワールドカップの初戦、カメルーン戦のときもそうだった。両チームの選手たちがロッカーチームから出てきて、一列に並ぶ。そして、子どもと手をつないで入場の準備をする。やがて、FIFAのアンセムが流れ、まず子どもたちが両国の国旗を広げてピッチへと出て行く。それに続き、選手が歩を進める。日本はゲームキャプテンの僕を先頭に、カメルーンはサミュエル・エトーを先頭に、白い布でできたゲートの下をくぐった。歓声のボリュームが一気に高まる瞬間だ。サイドラインを越え、いよいよピッチに足を踏む入れようとするとき、僕はアフリカの広い空を見上げて心の中でこう言った。「じいちゃん、今日もよろしく」

僕は静岡県藤枝市で長谷部家の長男として生まれた。姉と妹がいるので3人兄弟の真ん中である。長谷部家は藤枝で10代以上続いている。丸の中に三角が3つ並んだような家紋がある。僕が生まれたときには曾おじいさんも健在で、ひとつ屋根の下に4世代が暮らしていた。

父は厳格で僕にとってはとても怖い存在だった。小学校のときにはサッカー部の手伝いにも来ていて、ピッチでも厳しかった。母はせっかちなところもあるけれど、時間にきっちりしたタイプで、僕の性格はまさに母ゆずり。厳しい父に細やかな母というのが、僕の両親像だった。そんななか、じいちゃんはやさしく、ときに甘い存在だった。小学校に入るまで、僕はいつも、じいちゃんと一緒に寝ていた。僕はじいちゃんから、戦争の話や戦争の話を聞くのが好きだった。「あそこに爆弾が落ちた」とか、「食べ物なくて苦しかった」とか。決して楽しい思い出ではないはずなのに、孫のしつこい質問に飽きず答えてくれた。

サッカーを始めてから、じいちゃんはよくグラウンドに来てくれた。高校時代は、ほとんどの試合を観てくれたと思う。僕は高3になるまでレギュラーに定着できず、せっかくなら来てもらってもプレーする姿を見せられないことが多かったけど、それでも足を運び続けてくれた。僕が高3のとき、浦和レッズからオファーをもらった。このとき、プロに行こうと思ったのだけれど、両親の猛反対もあって、推薦で都内の大学に進むのか、プロになるのか、僕の決意は揺れた。当時、オファーをくれたのもレッズのみ（正確に言うと、最終的には名古屋グランパスからもオファーがあったが、それは高3の終盤のことでプロ行きを悩んでいた頃はまだレッズからのオファーしかなかった）。自信がないわけではなかったが両親がもろ手を挙げて、賛成できなかったのは仕方なかった。

そんな僕に、じいちゃんが言った。「マコト、人生は一度しかないんだよ。男なら思いきって挑戦するべきではないのか」おじいちゃんは普段、寡黙なだけにいざアドバイスしてくれたときには心に響くものがあった。僕は結局、両親の反対を押し切って、レッズのお世話になることを決めた。両親は都心の華やかな大学キャンパスを僕に見学させて、決心を覆そうとしたけれど、僕の心は揺るがなかった。今考えると、じいちゃんの一言がなかったら、今の僕はなかったかもしれない。

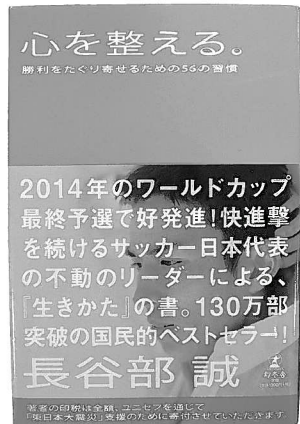
僕がプロに入ったときにまず目標のひとつに設定したのが、一日でも早くじいちゃんをスタジアムに招待して、プレーしているところを見せることだった。プロ1年目はなかなかベンチ入りできず、ナビスコカップで1試合、途中出場しただけだった。

プロ2年目がスタートする頃、じいちゃんは病室にいた。チームに戻る前にお見舞いに行くと、意識が朦朧としていて、もしかしたらと予感が頭をよぎった。数日後、レッズの練習場で自主トレをしているとき、母親からの電話が鳴った。「おじいちゃんが危ない」僕は新幹線に飛び乗り、藤枝を目指した。せめて最後にお別れを伝えたい。ありがとう、と言いたい。このときばかりは新幹線が遅く感じられてイライラした。まだ車内にいるとき、再び母親から着信があった。出なくても内容は分かった。藤枝に着くと、すでにじいちゃんは病院から実家に移されていた。

「男は泣くもんじゃない」じいちゃん言葉がふっと浮かんで、あふれ出しそうなものを必死で堪えた。それから僕は、じいちゃんがいつも見ているでも恥ずかしくないような人間になろうと思った。あるときから、ブーマの方をお願いして、スパイクの内側の部分に、「松」という刺繍を入れてもらうことにしている。じいちゃんの名、松太郎の頭文字だ。

そして、じいちゃんの死から約半年後、プロ初ゴールを決めたときに両手の人さし指を天に突き上げて、心の中で言った。「やったよ、じいちゃん」それから僕は、人生で迷うことがあるたびに、じいちゃんに問いかける。「じいちゃん、どうしようか？」じいちゃんなら何て言うだろう、と考えるのだ。休暇で帰国すると、僕はじいちゃんのお墓に行く。母親の実家のお墓にも行く。お墓参りで僕は自分の現状報告をして、そして決意表明もする。じいちゃんにだけは、きちんと目標を伝える。そして、それを見守ってくださいとお願いをする。

僕にとってじいちゃんは家族のシンボリックな存在で、試合での感謝の気持ちは、祖母、父親、母親、姉、妹、すべての家族に向けられたものである。どんなときでも家族は僕に力を与えてくれる。これからも心の中のじいちゃんと一緒に、サッカーの世界で勝負していきたい。



長谷部誠著
『心を整える。勝利をたくり寄せるための56の習慣』
(幻冬舎) 発行 2011年3月20日